

仕事始め式での挨拶

平成23年1月4日

皆さん、明けましておめでとうございます。

県民の皆さん、職員の皆さん、それぞれに良い年をお迎えになったことと思いますが、年末年始の記録的な大雪で大変な目にお会いになられた方も多くおられると思います。

12月31日、鳥取県奥大山スキー場で起こった雪なだれで、4人の方がお亡くなりになりました。うち3人の方は安来と松江にお住まいの方で、同スキー場でスキースクール指導員をされておられたとのことでもあります。心よりお悔やみを申し上げる次第であります。

また道路、鉄道などの混乱による交通マヒ、停電や集落の孤立、倒木、ハウスの倒壊などに遭われた方々が多くおられます。

関係の市町、県、国、自衛隊、JR、電力会社、建設業者の方々などの懸命の努力により事態は復旧してきておりますが、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げるとともに、休日を返上して昼夜の作業に当たられた方々、県庁では土木部、農林水産部、県土整備事務所など出先機関、危機管理・防災担当など関係の職員に対しまして、厚く御礼を申し上げる次第であります。

さて、年明けの出だしの天気はこのように大荒れでありましたが、立正大湊南高校が、全国高校サッカー選手権大会で、島根県勢としては初めてベスト8に進まれるという明るいニュースもありました。

では、県民の皆さんのこれからの生活に直結する経済の天気はどうか。年頭の地方紙の報道を見ますと、山陰両県の主要企業約三百社にアンケート調査をしたという記事がありました。それによると、今年の業績見通しが「悪くなる」と答えた企業は、全体の約30%でした。

実は、このアンケート調査については、一昨年と昨年の仕事始めの場でも触れております。

一昨年はリーマンショック直後の仕事始めでしたが、「業績が悪くなる」の割合は約60%でした。その1年後の昨年は約45%で、そして2年後の今年は約30%ということで、2年連続して約15%ずつ、悲観的な見方が少なくなっております。

他方、今年「良くなる」という割合は20%で、「悪くなる」の30%より低いのであります。他は、「変わらない」が約35%、「分からない」が約15%ですから、決して手放しで明るい見通しとは言えない訳であります。

現状では、不十分ではありますが、回復に向かう基調にあるといったことかと思われまます。

こうした意味で、景気の回復が確実に定着するよう、私どもは今年も引き続き努力していかなければなりません。

国も昨年は累次の景気対策を打ち、そして年末の来年度予算編成におきましても地方にも配慮した対策を打ち、県もこれに呼応し、12月議会で約160億円の追加補正予算を提出し、承認をしていただいたところであります。

今後、この補正予算の迅速かつ適切な執行を行っていかなければなりません。

そして、本日の仕事始めから2月議会に向けまして、鳥インフルエンザ対策や今回の雪害被害復旧対策を含む補正予算と来年度予算の編成作業を行っていかなければなりません。

来年度は、こうした予算と12月補正予算を合わせ、切れ目のない景気・雇用対策を講じていかなければなりません。

勿論、この他にも農林水産業、中小企業、観光振興、企業誘致、医療・福祉、高齢者・障がい者対策、中山間地域対策、環境、文化・教育振興、犯罪防止など、多くの課題に取り組んでいかなければなりません。また「古事記編纂1300年」という特別な事業に取り組んでいく必要があります。

県が今、直面しているこうした多くの課題を考えますと、我々は、この一年、一段と気を引き締め、そして、一丸となって働いていく必要があります。

皆さん、「今年一年が県民の皆さんにとって明るい年になるよう、全力をあげて一緒に頑張っていきましょう」。

このことを締めくくりに申し上げて、私の年頭の挨拶を終わります。